

# 2024年 第53回 日本童謡賞

一般社団法人日本童謡協会は、こどもの歌の振興を図るため制定した『日本童謡賞』の第53回贈呈者を下記の通り決めました。

## ◆日本童謡賞（賞状、盾、賞金10万円）

- ・該当なし

## ◆日本童謡賞・新人賞（賞状、盾—ジャスラック賞—）

- ・うたかいずみ童謡詩集「あしたの木」（銀の鈴社 刊） うたかいずみ

## ◆日本童謡賞・特別賞（賞状、盾）

- ・有限会社ナカダ音楽事務所
- ・ダ・カーポ
- ・令和 じゃんけんぽん

## ◆日本童謡協会 奨励賞（賞状）

- ・あべ こうぞう
- ・たけうちこう

### <贈呈理由>

#### ◆日本童謡賞 新人賞

うたかいずみ童謡詩集「あしたの木」 うたかいずみ

創作童話や少年詩集の世界で活躍されているうたかいずみさんが新人賞？と疑問を持たれる方がいるかと思えます。しかしこの童謡詩集は一冊目初めての詩集です。

童謡詩集「あしたの木」にはどの作品にも、うたかさんの天性の優しさと子どもたちへの深い愛情が満ち溢れています。

何げない日常生活の中での子どものさまざまな心の動きや、自然界の小さな生命への慈しみが理解しやすいことばで、優しくやさしく適確に歌われています。すばらしい作品です。そしてそのあふれる愛情こそが子どもたちの温かい人格形成の基本だと思います。

うたかさんは、童謡を書き始めてから同人誌グループに参加し、作詩のセミナーに出席し、童謡を歌う会にも積極的に通われています。熱心な勉強ぶりに頭がさがります。

今後さらに完成度高いすぐれた作品を書かれますことを期待して日本童謡賞新人賞を贈呈します。

（佐藤雅子 記）

#### ◆日本童謡賞 特別賞

##### 有限会社ナカダ音楽事務所

2023年 中田喜直生誕100年を記念する三つの催しがナカダ音楽事務所によって企画され実現した。その中心を成す「中田喜直展」は7月から10月にかけて横浜歴史博物館において行われ広範な資料の展示から中田喜直100の物語を耳からも目からも感じることでできる幸せな時を与えてくれた。

「水芭蕉コンサート」は5月27日紀尾井ホールにおいて～やさしさを見つめた心の作曲家～と題し中田喜直の音楽を慕う音楽家が一同に集い秀逸な演奏を繰りひろげ聴衆の心を打った。

中田喜直ソングス「さくら」のCD制作は三鷹市芸術文化センター「風のホール」にバリトン歌手坂下忠弘・ピアノ松下倫士を迎え収録された。（8月30日～9月1日）この歌手の持つ柔らかい声の響きと二人の高質な演奏から作曲家中田喜直の求めている世界を強く感じさせてくれた。

この記念すべき年に三つの企画を成功させた有限会社ナカダ音楽事務所に日本童謡賞特別賞を贈呈します。

（早川史郎 記）

## ダ・カーポ

ダ・カーポは1970年代から1980年代を中心に「結婚するって本当ですか」「野に咲く花のように」他多数のヒット曲を出しています。オリジナル曲のフォークソング以外童謡・叙情歌・わらべうた・民謡などの日本の伝統的な楽曲のカバーをしています。

今回の50周年記念CDBOX「ダ・カーポ大全集ベスト」（日本コロムビア）5枚組の中のDISK4に収録されている童謡編での優れた歌唱は、人々の心に響き癒されることでしょう。

童謡の継承と振興における業績を讃え、今後一層の活躍を期待して日本童謡賞特別賞を贈呈します。

(中村守孝 記)

## 令和 じゃんけんぽん

童謡・こどものうたというものは詩人と作曲家が歌を作っても誰かが歌って人々に知らせてくれなければ歌が生まれたとは言えません。童謡を歌う歌手たちの存在はとても大切なものです。古き良き歌も、新作の童謡も、歌手たちが歌いつないでいくことによって、世の中に広がり、根付いていくのです。

長年童謡を歌われて日本の童謡の中心でもある眞理ヨシコさんが声をかけ、たいらいさおさん、稲村なおこさんなどを中心に「令和 じゃんけんぽん」は始まりました。たくさんの童謡歌手たちそしてピアニストたちが賛同して参加し、活動を広げて来ました。誰が一番偉いでもなく、グー、チョキ、パーのどれが強いでもないじゃんけんぽんのように、それぞれの個性が活かせる集団でいたい、と「令和 じゃんけんぽん」と名付けられました。

「令和 じゃんけんぽん」は童謡歌手たちが、自分たちで歌を選んで、自分たちでコンサートを主催して、童謡の世界を広げていくという活動を続けています。2023年には会のテーマソングのCDを製作しました。歌手たちが力を合わせて、主体的に活動することが、童謡の世界に活気を与え、多くの人々にこれからも童謡を届けていくことでしょう。

「令和 じゃんけんぽん」の今までの活動の実績と、童謡の未来への希望を込めて、日本童謡賞特別賞を贈呈します。

(新沢としひこ 記)

## <日本童謡協会 奨励賞>

この賞は、令和3年度より新設されたもので、その地に根ざす文化所産に対する強い思いと、童謡への深い愛情とその業績に対して贈られます。

### ◆日本童謡協会 奨励賞

#### あべ こうぞう

あべ こうぞう氏は広島県福山市在住の日本童謡協会の詩人会員です。

福山市において備後の童謡詩人の同人誌「このゆびとまれ」を発刊し、新しい童謡のコンサートを開催しています。また、「童謡を歌おう会」のコンサートを年2回行い、近年口ずさむことが少なくなっている童謡と新しい童謡を発表しています。

福山市から全国に童謡の魅力を発信し、日本の文化所産「童謡」を広く浸透させる意欲的な活動と努力を讃え、今後益々の活躍に期待して日本童謡協会奨励賞を贈呈します。

#### たけうちこう

平成元年の三木露風生誕100年祭・三木露風賞新しい童謡コンクールに於いて『「おるすばん」のおるすばん』（宮田滋子作詩）で優秀賞を受賞。その後、日本童謡協会に入会。

また、若松正司氏の率いる「あしたの会」の一員として、作曲家としての研鑽を重ね、多くの作品を発表してきた。作曲集『「おるすばん」のおるすばん』は、童謡祭で作品を発表し続けて30年余経ったことにより、まとめた曲集。童謡への熱い思いのこもった作曲集に対し、日本童謡協会奨励賞を贈呈します。

#### <日本童謡賞選考委員会>

委員長	早川史郎			
委員	大竹典子	上 明子	佐藤雅子	新沢としひこ
	中村守孝	三平典子	宮中雲子	矢崎節夫

## <受賞者略歴>

### うたかいずみ

兵庫県生まれ。第12回国民文化祭創作童話部門文部大臣奨励賞。第69回芸術文化団体「半どんの会」児童文学部門文化賞。第7回兵庫県青少年童話コンクール優秀賞。その他多数。

「子供の詩有本芳水賞」推薦委員。2023年1月に童謡詩集『あしたの木』（銀の鈴社）出版。

童謡詩「あしたの木」「魔法のマント」「ほしの ネックレス」「紙ひこうき とぼそ」「おばけの 先生」「あおい きのみ」「ゆうやけパレット」などが、日本童謡協会主催『童謡祭』で演奏される。

童話『フラワーレターは さんになんで!』『ブンのおてがら』朗読劇上演。『ことばの詩集—方言と手紙』（銀の鈴社）『おはなしの森シリーズ』（神戸新聞総合出版センター）『頭がよくなる10の力を伸ばすお話』（PHP 研究所）その他。「とっくんこ」「季節風」「花」同人。日本童謡協会・日本児童文学者協会・日本児童文芸家協会会員。

### 有限会社ナカダ音楽事務所

2003年に作曲家・中田喜直の個人事務所を継承。クラシック音楽、日本の歌、童謡などにジャンルを絞りCD制作を主な業務とし、併せて中田喜直の音楽全般を顕彰。コンサート、レコーディングの企画・制作を音楽出版・ハッピーエコー社と協力して行っています。

また音楽ディレクターとして、EMI ミュージック・ジャパン勤務を経て、ユニバーサルミュージック、ワーナーミュージック、オクタヴィア・レコード、ホリプロなどのレーベルと協力、近年では、荘村清志、千住真理子、小林愛美、はいだしょうこ、などのCDを制作。2023年制作、バリトン歌手・坂下忠弘の新作CD「中田喜直ソングス～さくら～」（299MUSIC）は朝日新聞など各方面より高評価をいただきました。

また、中田喜直生誕100周年企画として、映像、語り、演奏による「水芭蕉コンサート」、横浜市歴史博物館にて「特別展 生誕百年 中田喜直展」、三鷹市主催「めだかの学校ファミリーコンサート」などをハッピーエコー社と協力し成功裡に終わりました。

### ダ・カーポ

いつまでも初心忘れず、という意味でダ・カーポ（音楽用語で最初に戻る）と名付け、榊原まさとしと広子のデュオは1973年デビュー。翌年「結婚するって本当ですか」の大ヒット。その後「野に咲く花のように」、「宗谷岬」、「よこはま詩集」「ベストパートナー」など数々のヒット曲の他、童謡、叙情歌を100曲以上レコーディング。日本の文化として後世に伝えるべく歌い続け、そのCDはロングセラーとなっている。

2012年から、榊原広子がNHK-FM「音楽遊覧飛行」のパーソナリティを務めている。

2人の娘、榊原麻理子は2008年よりメンバーに加入。2013年～2020年パリでのフルート留学にて研鑽を積み、帰国後メンバーに復帰。2023年、デビュー50周年を迎える。

記念シングル「今日がいちばん若い日!」が、NHK「ラジオ深夜便」の『深夜便のうた』として放送され、大きな反響を呼ぶ。50周年記念のCD、DVD等、続々とリリース。

また、コンサート活動も精力的に行っている。今も変わらぬ歌声は、世代を超えて、根強い人気を得ている。

### 令和 じゃんけんぽん

2019年、眞理ヨシコを発起人、たいらいさお、稲村なおこを世話人として発足。長年童謡をライフワークとする歌手・ピアニスト・スタッフに呼びかけ、20人の仲間が趣旨に賛同、新しい童謡運動の一つとして演奏者仲間主導で創るコンサート活動をスタートさせました。第1回目のコンサートを2019年7月13日（土）紀尾井町サロンホールにて開催。以後、第5回目を2023年11月8日（水）板橋区立文化会館で開催。会では本番の公演もさることながら事前のリハーサルを重視、作品への”思い”を大切に演奏することを切磋琢磨しながら取り組んでいます。2023年11月、会のテーマソング「じゃんけんぽんのうた」のCD発売。今後も「令和の童謡運動」として、名曲童謡から新しく誕生する童謡まで、人間の普遍的なテーマを伝える童謡を伝承し、開拓していきたいと思っています。

### あべ こうぞう

定年退職後帰郷。（広島県福山市神辺町道上）童謡作詩家葛原しげると同郷、近くの三原には武内俊子が居る。

宇宙船、とっくんこ、日本童謡協会会員。

童謡詩の同人誌「このゆびとまれ」を発刊し、「新しい子どものうた・このゆびとまれコンサート」「童謡を歌おう会」を立ち上げる。「生きているしるし」（銀の鈴社刊）、「ママから始まるお母さんの歌」（私本出版）出版。

第9回島木赤彦童謡コンクール 入賞

第49回児童作曲コンクール（東京都小音楽教育研究会）課題詩採用

第14回親守唄・歌会（2020）奈良市 入選

滋賀県五箇荘地区まちづくり協議会 最優秀賞 六つの心でまちづくり

地元福山市にて、童謡を歌おう会（年2回、現在23回目を迎える）・このゆびとまれコンサートを開催。

### たけうちこう

悩み多き青春時代の『心の奥底からの叫び』とも言える”音つむぎ人生”の集大成として、この度2023年に童謡作品集を編集。1973年と1975年にNHK「あなたのメロディー」で演奏され出演。早大理工卒の異端児の為、ヤマハやビクターの作曲教室、音楽専門学校で学んだ後、1984年から四半世紀に渡り、若松正司先生の「あしたの会」で作曲理論のご指導を仰ぐ。1989年に三木露風生誕百年祭新しい童謡コンクールにて優秀賞受賞。日本童謡協会入会。毎年、童謡祭で新曲を発表し30年超となる。大阪芸術大学藤原薫教授の著書やCDに採用、2002年全国童謡サミット愛媛大会記念コンサート等で演奏。

中田喜直先生の「僕その歌覚えてる」、湯山昭先生の「マルが付いている」、宮中雲子先生の「今日のあなたの作品よかったわねえ」等々、有難い言葉の数々は忘れられない。当方ベヒシュタイン・ザールにて100回超演奏会開催。